

2013年度 第4回 農村計画本委員会 議事録(案)

開催日：2014年2月28日(金) 14:30～

場 所：建築会館 202 会議室

出席者：委員長：岡田知子

幹 事：北澤大佑(文責)

委 員：井原満明・岩田俊二・後藤隆太郎(skype)・齋尾直子・佐藤栄治・重村力・沼野夏生・山崎義人

I. 確認事項

前回(2013年度第3回本委員会)の議事録を確認した。

II. 次期委員長選挙結果

- ・ 北澤幹事から、11月1日投票締切、11月5日開票の結果、農村計画委員会委員長選挙内規に基づき有効投票数の過半数を得た岡田知子君(西日本工業大学;再任)を次期(2014-2015年度)委員長に選出したことの報告があり、これを承認した。

III. 報告事項

1. 学術推進委員会関係(9～12月委員会議案)

(1) 2014年度予算配分

- ・ 今年度とほぼ同額となった。各小委員会活動を含め予算管理を徹底する。

(2) 竹中育英会建築研究助成：2014年度候補募集と2013年度交付者結果

- ・ 若手研究者を中心に周知を図る。

(3) 本会刊行物の英文版の刊行促進

- ・ ネイティブチェックなどの費用として、該当する出版物があれば積極的に活用を促進する。

(4) オンラインストレージ利用状況

- ・ 3つの小委員会で利用されている。未利用の各小委員会では、積極的に活用することを推奨する。

(5) 委員会における会員外委員への入会促進

- ・ 農村計画委員会は、会員外委員がない。

(6) 2012～1013年度調査研究委員会活動報告会

- ・ 農村計画委員会の報告はない。

(7) 大会若手優秀発表について

- ・ 2013年度は試行的に実施(農村計画、建築社会システム、材料施工、構造の一部など)。2014年度からの実施要綱が策定された。

- ・ 調査研究委員会が審査基準を定め、審査を実施し、委員長名でホームページ上に公表する。
- ・ メールで意思確認を行う作業を簡素化すべきである（投稿時にチェック欄を設けるなど）と学術推進委員会に申し伝えているが、対応されていない。
- ・ 司会者、審査員 2 名による二段階審査を実施している。各セッションで司会が 1 名選出し、審査員が審査することとなっているが、次年度からは、審査員 2 名により午前・午後の部ごとに審査を行うこととする。
- ・ 審査員は今年度と同様に本委員会幹事、小委員会主査が務める。

2. 大会関係

(1) 2013年度大会(北海道)概要報告

- ・ 農村計画部門では 7 名が学術講演会を欠席、1 名が発表登録費未納であることが報告された。

(2) AIJデジタルライブラリー：2013年度大会研究集会資料無償公開アンケート結果

- ・ 完売後、1 年後にデジタルライブラリーに公開する。

(3) 紙面投稿の廃止

- ・ 次年度から紙面投稿が廃止されることが報告された。

(4) 投稿期間（サーバー使用期間）の短縮

- ・ コスト削減の点から次年度から投稿期間が短縮されることが報告された。

(5) 2014年度大会(近畿)プログラム編成方針・講演発表時間

- ・ プログラム編成方針を確認した。

3. 本委員会関係

(1) 2014年度大会農村計画部門研究集会（研究協議会・PD：2件）

- ・ 研究協議会：集落居住小委員会が担当となり、2 日目の午後に開催する。
- ・ PD：農山漁村文化景観小委員会が担当となり、1 日目の午後に開催する。
- ・ 両小委員会とも、本日の議論を踏まえてタイトル・主旨等を再考のうえ、企画を進める。

(2) 『東日本大震災合同調査報告書』進捗状況

- ・ 3 月末発行が遅延する見込み（社会システムも遅延している）。集まっている原稿については、査読を開始し、年度末までに校正終了を目指す。

IV. 審議事項

1. 2014 年度大会(近畿)講演要領・司会要領

- ・ 審査の観点からも質疑の時間を 3 分設けることが望ましいことから、例年通り、1 題 8 分とし、発表 5 分、質疑を 3 分とする。

- ・ 質疑の方法は、セッションごとにまとめて行うことを基本とし、司会者の判断で個別の質疑方式をとれることとする。

2. 委員推薦関係

(1) 2015年学会賞選考委員会委員(論文部会)候補

- ・ 柳田良造君を推薦する。

(2) 2015年奨励賞選考委員会委員候補

- ・ 糸長浩司君を推薦する。

(3) 論文集委員会委員

- ・ 工藤和美君、北澤大佑君を推薦する。

(4) 技術報告集委員会委員

- ・ 栗原伸治君を推薦する。

(5) 広報委員

- ・ 北澤大佑君を推薦する。

(6) 2014年度大会学術講演会プログラム編成会議委員

- ・ 下記14名に依頼する。

委員長：岡田知子君

幹事：神吉紀世子君、栗原伸治君、北澤大佑君

小委員会主査：後藤隆太郎君、熊野稔君、藤沢直樹君、柳田良造君、山崎義人君

委員：齋尾直子君、齋藤雪彦君、佐藤栄治君、三笠友洋君、野田満君

3. 本委員会関係

(1) 住宅系研究報告会の運営委員推薦

- ・ 山崎義人君を推薦する。

(2) 催し物実施報告 (2件)

- ・ 研究交流会「チベットの建築文化」：徐宗威先生（中国建築学会副理事長）を招き、1月31日に開催した。
- ・ 日韓交流研究会「農村の現代的課題」：2月22日に韓国で開催し、日本から5名参加し、齋藤雪彦君、後藤隆太郎君が研究発表を行った。韓国側からは金承根先生（江東大学校教授）、張澤桂先生（全南道立大学校教授）、李乙圭先生（韓京大学校教授）から研究発表があった。

(3) 小委員会活動成果報告

1) 集落復興再生小委員会

- ・ 各委員の調査研究活動のとりまとめを行い、『東日本大震災合同調査報告書』の作成にあたっている。

2) 農山村地域組織形成小委員会

- ・ 今年度まで全国事例集の作成、春季学術研究会を開催した。
- 3) 農山漁村文化景観小委員会
 - 4) 農村環境共生小委員会
 - ★未提出：農村環境共生小委員会（3/31まで）
 - 5) 集落居住委員会
 - ・ 大会研究協議会の開催に向け、公開研究会、委員会を開催して活動を行った。当初目標は概ね達成した。
 - 6) 国土計画小委員会
 - ・ 今年度大会にて研究協議会を開催した。
- (4) 2014年度新設委員会の確認と活動方針について
- 1) ワーキンググループ
 - ・ ルーラルネット、アジア農村フォーラムの両ワーキンググループを継続して設置、運営する。
 - 2) 集落復興小委員会
 - ・ 被災集落・地域における被害実態、復興過程の記録検証、復興計画策定支援を継続する。
 - ・ 三井物産環境基金の助成を活用し、春季学術研究会の企画（3月末締切）、運営を行う。
 - 3) 農山村地域組織小委員会
 - ・ 次年度から熊野稔君が主査となり「農山漁村地域組織小委員会」に改組する。現在委員を公募している。
 - ・ 前委員会での研究成果を踏まえ、農山漁村で活動する先進的な地域組織の全国事例集の作成を目指す。
 - 4) 農山漁村文化景観小委員会
 - 5) 農村環境共生小委員会
 - ・ 現在委員を公募中。建築以外の分野（生態学、環境学等）からもメンバーを集める。
 - ・ 研究活動の出口として、圏域論を踏まえた歴史的な共生関係を把握、空間的に鳥獣害と野生復帰の両面からの対策を棲み分け・共存させるなど農村計画からのアプローチや、耕作放棄地の増加との関係、管理対策、緩衝空間の位置づけなど集落レベルでの計画のあり方などを検討する。
 - 6) 集落居住委員会
 - ・ 前委員会での研究活動（「むらを住み継ぐカタチ」）を引き続き検討していく。
 - ・ 公開研究会、大会研究協議会を実施しつつ、集落を維持・継承するための現代的な方法論の構築を図る。
 - ・ 現在、委員を1名公募している。
 - 7) 農村・国土計画小委員会

- ・ 柳田良造君を主査とし、前委員会から引継ぎ都市農村計画制度のあり方を踏まえた国土計画の提言を目指す。
- ・ 委員の公募は行わず、前委員会の研究成果のとりまとめを行う。

(5) 2014-2015年度農村計画本委員会委員選出

- ・ 下記35名を選出した。
再委嘱：岡田知子君、神吉紀世子君、北澤大佑君、栗原伸治君、井原満明君、内田文雄君、大沼正寛君、川嶋雅章君、工藤和美君、熊野稔君、後藤隆太郎君、佐藤栄治君、澤田雅浩君、重村力君、篠部裕君、清水肇君、鈴木孝男君、月舘敏栄君、沼野夏生君、藤沢直樹君、村本徹君、柳田良造君、山崎寿一君、山崎義人君
新委嘱：浅井秀子君、川口友子君、菊地成朋君、菊池義浩君、坂本淳二君、佐久間康富君、瀬沼頼子君、平田隆行君、三笠友洋君、三橋伸夫君、山口忠志君

(6) 農村計画委員会メーリングリストの運用変更について

- ・ Yahoo!のサービス終了により、農村計画委員会 ML を google グループに移行する。
- ・ 従前の ML に登録されていたメールアドレスはすべて継続させる。
- ・ ルーラルネット WG が移行・登録作業を行う。

以 上